日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION
〒107-0052
東京都港区赤坂１丁目２番２号

Tel：03-6229-5566
Fax：03-6229-5570
Email：info@nmf.or.jp
https://www.nmf.or.jp

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

レイ・チェン
ヴァイオリン・リサイタル

2023年
8月9日（水）

サントリーホール ブルーローズ

主催　日本音楽財団

表紙写真：ストラディヴァリウス 1714 年製ヴァイオリン「ドルフィン」
Cover photo : Stradivarius 1714 Violin “Dolphin”

PROGRAM

イーゴリ・ストラヴィンスキー / サミュエル・ドゥシュキン編：イタリア組曲
Igor Stravinsky/ arr. Samuel Dushkin : Suite Italienne

ヨハン・セバスティアン・バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第２番ニ短調 BWV1004 より 「シャコンヌ」
Johann Sebastian Bach : “Chaconne” from Partita No. 2 for Solo Violin in D minor, BWV1004

ヨハネス・ブラームス / ヨーゼフ・ヨアヒム編：ハンガリー舞曲 第 7 番
Johannes Brahms /arr. Joseph Joachim : Hungarian Dance No.7

ヴィットリオ・モンティ：チャールダーシュ
Vittorio Monti : Csárdás

曲目解説

イーゴリ・ストラヴィンスキー / サミュエル・ドゥシュキン編：イタリア組曲

作曲者のイーゴリ・ストラヴィンスキー（1882 ～ 1971）は、ロシア革命と二つの大戦の時代を生き抜き、二度の亡命を経験しながら、驚くほど多様な音楽スタイルで作品を残した音楽家です。天才的なバレエ･プロデューサーのディアギレフの目に留まり、バレエ音楽《火の鳥》や《春の祭典》などのセンセーショナルな音楽で後世に名を残しました。

そんなストラヴィンスキーの作品にしては、この《イタリア組曲》の響きは、意外なほど古典的に感じられるかもしれません。それもそのはず。この作品は、18 世紀イタリアの作曲家ペルゴレージの音楽に基づいて創作されたバレエ音楽《プルチネルラ》（1920）から、ヴァイオリンとピアノで演奏できる組曲に仕立てられた作品なのです。ちなみに、プルチネルラとは道化師の意味。バレエの舞台美術はかのピカソが担当し、パリ・オペラ座で初演されました。《イタリア組曲》は、1934 年にポーランド出身のヴァイオリニスト、サミュエル・ドゥシュキンと共に編曲され、序奏、セレナータ、タランテラ、ガヴォットと二つの変奏、スケルツィーノ、メヌエット～フィナーレ、という 6 曲で構成されています。

ヨハン・セバスティアン・バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第２番ニ短調 BWV1004 より 「シャコンヌ」

バロック時代のドイツの作曲家ヨハン・セバスティアン・バッハ（1685 ～ 1750）は、何百曲もの教会音楽を残して後世に多大な影響を与えたことから「音楽の父」と呼ばれています。

そんなバッハも宗教曲ばかりを残したわけではありません。教育用のチャーミングな鍵盤音楽なども残していますし、一挺のヴァイオリンだけで宇宙的な広がりを聞かせる曲集《無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ》という傑作もあります。この曲集は、バッハがドイツの都市ケーテンの宮廷楽長時代に作られ、手書きの楽譜も残されています。しかし、いつ、誰のために作曲されたものなのか、はっきりとしたことはわかっていません。

この曲集の〈パルティータ第２番〉第５曲にあたるのが、とても有名な「シャコンヌ」です。パルティータとはイタリア語で「組曲」を意味し、シャコンヌとは変奏曲の一種です。長大でドラマティックなこの曲は、大きく３つのパートで成り立っています。全体的にシリアスで緊張感あふれるニ短調の作品ですが、中間部ではニ長調の明るく光挿すような表情も聴かせます。

ヨハネス・ブラームス / ヨーゼフ・ヨアヒム編：ハンガリー舞曲 第 7 番

ドイツの作曲家ヨハネス・ブラームス（1833 ～ 1897）は、音楽家として駆け出しの 21 歳の時、ハンガリー出身のヴァイオリニスト、エドゥアルト･レメーニと演奏旅行に出かけました。レメーニはたびたびロマ族の音楽を奏でました。その哀愁や情熱に富んだ旋律は、ブラームスの心に深く残ったのでしょう。やがて彼は、当時書き留めておいたロマのメロディーと、自分自身がハンガリー風に創作したメロディーとを題材にして、4 手連弾用のピアノ作品《ハンガリー舞曲集》を作りました。

当時はピアノ連弾が家庭やサロンなどで流行していたこともあり、楽譜はまたたく間に売れ、ブラームスの名を一躍ヨーロッパ中に轟かせました。曲集は全部で 4 巻から成り、21 曲を収めています。第 7 番は第 2 巻に収められ、1869 年 2 月、ブラームスが 35 歳の時に出版されました。ヴァイオリンとピアノ用の編曲版は、ブラームスの生涯にわたる親友のヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒムによって作られました。

ヴィットリオ・モンティ：チャールダーシュ

「チャールダーシュ」とは「居酒屋」を意味するハンガリー語に由来した音楽の一ジャンルです。ゆったりと奏でられる序奏部分（ラッサン）と、速く生き生きと奏でられる主要部分（フリスカ）で構成されます。

この曲はハンガリーのロマ族の音楽を思わせる風情を湛えていますが、作曲したのはイタリア人で、フランスでも活躍したヴィットリオ･モンティ（1868 ～ 1922）です。彼はヴァイオリニスト、指揮者、作曲家として活動し、数々のオペレッタも手がけていたようですが、現在ではこの《チャールダーシュ》によってのみその名が知られています。1904 年に作られたこの曲は、もともとはマンドリン用に書かれたものですが、ヴァイオリンやピアノ、オーケストラによっても演奏されます。情熱的な序奏と、スリリングにテンポアップする主要部とのコントラストにご注目ください。

解説：飯田 有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

レイ・チェン（ヴァイオリン）

©Tat Keng Tey

台湾生まれ、オーストラリア育ち。15 歳でカーティス音楽院に入学しアーロン・ロザンドに師事した。2008 年ユーディ・メニューイン国際コンクール、2009 年エリザベート王妃国際音楽コンクールで優勝した。

2011 年ソニーから発売されたデビューアルバム「ヴィルトゥオーゾ」が同年のエコー・クラシック賞を受賞。2017 年にはデッカ・クラシックスと専属契約を結び、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団と録音を行った。大手オンラインの TV シリーズ「モーツァルト・イン・ザ・ジャングル」に出演したほか、パリ祭（フランス）、ノーベル賞記念コンサート（ストックホルム）、BBC プロムス等の主要なイベントにも出演。

これまでにロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ワシントン・ナショナル交響楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニック、ニューヨーク・フィルハーモニック、ベルリン放送交響楽団、バイエルン放送交響楽団等と共演しているほか、リッカルド・シャイー、ウラディーミル・ユロフスキ、サカリ・オラモ、マンフレート・ホーネック、ダニエレ・ガッティ、キリル・ペトレンコ、クシシュトフ・ウルバンスキ、ユライ・ヴァルチュハ等の指揮者と共演。

近年、音楽教育への取り組みとして世界中のミュージシャンや個人が集い作品や練習を共有できるアプリ「Tonic」を共同開発した。

日本音楽財団から貸与されたストラディヴァリウス 1714 年製ヴァイオリン「ドルフィン」を使用している。

Ray Chen, violin

Born in Taiwan and raised in Australia, Ray Chen was accepted to the Curtis Institute of Music at age 15, where he studied with Aaron Rosand and was supported by Young Concert Artists. He won the First Prize at the 2008 Yehudi Menuhin Competition and the 2009 Queen Elisabeth International Violin Competition.

His premiere album “Virtuoso” released from SONY in 2011 received an ECHO Klassik Award of the same year. In 2017 he signed to Decca Classics and recorded his album with the London Philharmonic. He appeared in major online TV series “Mozart in the Jungle” as well as performed at major media events such as the France’s Bastille Day, the Nobel Prize Concert in Stockholm and the BBC Proms.

The orchestras and conductors he has performed with include the London Philharmonic Orchestra, National Symphony Orchestra, Los Angeles Philharmonic, New York Philharmonic, Berlin Radio Symphony, Bavarian Radio Chamber Orchestra, as well as Riccardo Chailly, Vladimir Jurowski, Sakari Oramo, Manfred Honeck, Daniele Gatti, Kirill Petrenko, Krystof Urbanski, and Juraj Valcuha.

As part of his commitment to music education, he has recently co-founded Tonic, an application that aims to motivate musicians and learners around the world to practice their craft together.

He plays the Stradivarius 1714 Violin “Dolphin” on loan from the Nippon Music Foundation.

www.raychenviolin.com

ストラディヴァリウス 1714 年製ヴァイオリン「ドルフィン」
Stradivarius 1714 Violin “Dolphin”

1800 年代後半にこの楽器を所有していたジョージ・ハートは、光沢の美しい裏板のニスと華麗な見栄えが、優美なイルカが光り輝いている様を思わせることから「ドルフィン」という名前を付けた。音色並びに楽器の保存状態が優れており、1715 年製「アラード」、1716 年製「メシア」に並ぶストラディヴァリウスの三大名器の一つとされている。また、巨匠ヤッシャ・ハイフェッツ（1901 ～ 1987）が愛用していたことでも知られている。

The name of this violin is derived from the owner, Duke of Camposelice, who was a well-known Stradivarius collector in France in the 1880s. In 1937, this violin was exhibited at the prestigious Cremona Exhibition by Dr. Kuhne who owned a collection of instruments. Nippon Music Foundation acquired it from the family of a Belgian amateur player who took great care of it for over 30 years.

佐藤　卓史（ピアノ）
Takashi Sato, piano

高校在学中に日本音楽コンクールで優勝。東京藝術大学を首席で卒業後渡欧、ハノーファー音楽演劇大学、ウィーン国立音楽大学で研鑽を積む。2007 年シューベルト国際コンクール第 1 位をはじめ、カントゥ国際コンクール第 1 位、メンデルスゾーン国際コンクール最高位、エリザベート王妃国際コンクール入賞など受賞多数。内外の主要オーケストラと共演のほか、アンサンブルピアニストとしても世界的に評価が高く、2012 年よりエリザベート王妃国際コンクールの公式伴奏者を務める。

2014 年より「佐藤卓史シューベルトツィクルス」を展開、ライフワークとしてシューベルトのピアノ曲全曲演奏に取り組んでいる。放送出演、執筆、作編曲など幅広く活動中。

Winner of the Music Competition of Japan while in high school. After graduating Tokyo University of the Arts with top honors, Takashi Sato studied at Hanover University of Music and Drama and University of Music and Performing Arts Vienna. He was prizewinner at numerous competitions including 1st prizes at Schubert International Piano Competition in 2007 and Città di Cantù International Piano Competition, and laureate at Queen Elisabeth International Music Competition. He is equally appreciated as an accomplished soloist and chamber musician, working with renowned orchestras and artists, as well as young participants at the Queen Elisabeth Competition as an official pianist.

Since 2014, he has been giving a recital series, “Takashi Sato Schubert-Zyklus”, presenting the complete works for piano by Franz Schubert. He is widely active in broadcasting, writing, composition, and arrangement.

www.takashi-sato.jp

日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION

日本音楽財団は、1974 年に日本国内の音楽文化の振興と普及を目的として設立され、創立 20 年を迎えた 1994 年からは、西洋クラシック音楽を通じた国際貢献を目的として、弦楽器名器の貸与事業を行っています。

保有する世界最高クラスの弦楽器を 21 挺（ストラディヴァリウス製ヴァイオリン 15 挺、チェロ 3 挺、ヴィオラ 1 挺、グァルネリ・デル・ジェス製ヴァイオリン 2 挺）を若手有望演奏家や世界で活躍する演奏家に国籍を問わず無償で貸与し、同時に、これら世界の文化遺産ともいわれる名器を次世代に継承するための保守・保全を行っています。また、楽器被貸与者による演奏会を日本国内外で開催し、名器の音色に触れる機会を提供しています。

日本音楽財団の事業は、日本財団の全面的な支援により実施されています。

Nippon Music Foundation was established in 1974 with the objective to enhance music culture in Japan. In 1994, the Foundation started the “Instrument Loan Project” through which the Foundation has strived to make international contributions by loaning the top-quality string instruments acquired by the Foundation.

The Foundation now owns 21 string instruments (15 Stradivarius violins, 1 viola, 3 cellos and 2 Guarneri del Gesù violins), and as the custodian of these world cultural assets, maintains them for future generations and loans them gratis to young promising musicians internationally active musicians regardless of their nationalities.

The Foundation’s activities are made possible by the generous support of The Nippon Foundation.